



有終の美を飾ろうと各学年取り組んでいます

校長 梶谷 雅弘



6年生による「カルメン」の合奏

いよいよ今年度も修了式と卒業式を残すばかりとなりました。6年生は、最上級生として立派に活躍し、新たな本校の伝統を築いてくれました。そんな卒業生に感謝をし、ますますの活躍を祈ると共に、後は5年生を中心に立派に引き継いでいきます。との決意を新たにす「6年生を送る会」が6日開催されました。保護者の方も参観する中、心温まる会となりました。

6年生の「カルメン」の合奏に、在校生は心打たれました。

6年生の限りない前進を在校生と共に祈りいたします。

各学年とも、有終の美を飾り、4月から素晴らしいスタートが出来るよう、今年度残された毎日を真剣に過ごしてきました。

平成25年度も、大きな成果を上げて終えることが出来るのも、保護者や地域の皆様のご支援とご協力のお陰です。衷心より御礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

シューズバンクプロジェクトへのご協力有り難うございました



趣旨を説明してくださる氏家様

今年も、4年生が総合的な学習の時間を活用し「シューズバンクプロジェクト」に意欲的に取り組みました。保護者の皆様や地域の皆様のお力添えもあり（1年生の保護者の方が、最終日の保護者会の後、わざわざ靴を4足持ってきてくださいました。）、437足の靴を集めることが出来ました。東京練馬中央ロータリークラブの皆さんが、2月28日に引き取りに来てくださり、3月上旬に船便で発送してくださいました。東京練馬中央ロータリークラブの皆さんも大変多くの靴が集まり喜んでいらっしゃいました。

4年生は、実に2月4日（火）から28日（金）まで約一ヶ月間に亘り、PR活動や回収活動、そして、回収した靴の仕分けや梱包の作業を、全児童がお互い支え合い力を合わせて取り組みました。

特に、今年は、南が丘中学校の生徒や教職員の皆様にも協力をお願いし、25日と26日に、中学生の登校時刻に併せて、正門で靴の回収にも当たりました。

子供たちは、この活動を通して、自分たちの優しさをフィリピンの子供たちに伝える喜びややりがいを強く感じました。また、笑顔で靴を持ってきてくれたみんなや活動の中で「頑張っているね。」と声をかけてもらったことに感謝をしていました。そして、「自分たちの事だけでなく、他の人の事も考えることを教えてくれて有り難うございました。」と活動に参加できた事に対して感謝の気持ちをもつことが出来ました。

まさに、東京練馬中央ロータリークラブの皆さんが、活動を通して、子供たちに成長をして欲しいと願っていることのすべてを体験できたことが窺えます。フィリピンの小学校で靴を渡す様子もビデオで見せて頂けることになっています。活動の結果を見られるのも、この活動の魅力の一つとなっています。今から、みんな楽しみにしています。



朝会で靴回収を呼びかける4年生

南が丘中学校で回収に当たる4年生

実は、26年5月22日（木）に、フィリピンで現地の学校に靴を配る際に、お世話になっている現地のロータリークラブの皆さん16名が、本校にお見えになることになりました。4年前に、カリフォルニア州教育文化交流団が来校しましたが、その時と同じように保護者の皆様にも、英語の通訳や接待のボランティアのお願いをいくつかあります。

まさに生きた国際理解教育の場となるものです。本校の児童にとっても、有意義な交流となるよう願っています。その節は、お力添えよろしくお願ひ申し上げます。